

1. 開会

2. 委嘱状交付・市長挨拶

市長－武蔵野市長の松下玲子と申します。皆様にこれからご検討いただく市有地でございますが、この地域で診療所を開業されていらっしゃいました故平井医師より福祉目的として、平成23年、建物も併せて遺贈を受けた土地でございます。その取得後に建物の活用が出来ないか、庁内で活用方法について検討を続けて参りましたが、老朽化が激しく解体をし、その後、平成29年に土地の北側の隣地を購入し、600㎡程度の土地として改めてその活用方法について地域に愛される場となるよう、幅広く検討をすることと致しました。昨年度から今年の5月にかけて、3回のワークショップ、意見交換会など、地域ニーズや地域課題を出していただき、様々なご意見があったと伺っております。今回、地域団体や一般公募市民、外部の有識者の先生を交えて、この間のワークショップの検討結果も踏まえつつ、皆様の専門的な見地から、この土地に適している機能は何かという視点でおまとめをいただきたいと考えております。来年3月末までと長期間にわたりますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

3. 配付資料確認（略）

4. 委員及び事務局自己紹介（略）

5. 委員長・副委員長選出

資料1「武蔵野市吉祥寺東町1丁目市有地利活用検討委員会設置要綱」第4条第1項に基づき、委員長に栗田委員（亜細亜大学名誉教授）、副委員長に山井委員（明星大学教授）がそれぞれ互選された。

6. 議事

(1) 本委員会の公開及び運営に関する確認事項

資料3「武蔵野市吉祥寺東町1丁目市有地利活用検討委員会の公開・運営に関する確認（案）」及び資料4「武蔵野市吉祥寺東町1丁目市有地利活用検討委員会傍聴要領（案）」による事務局説明の後、委員により承認された。

(2) 土地取得に至る経過、地域の現状と課題

(3) ワークショップ等の検討結果まとめ

委員長－続きまして議事の2番目になります、「土地取得に至る経過、地域の現状と課題」と3番目の「ワークショップ等の検討結果まとめ」を一括して議題としたいと思いますので、事務局より説明をお願い致します。

事務局－資料5-1、5-2について説明

委員長ー続いてワークショップの結果を続けてやりますか。

事務局ーワークショップの検討のまとめについては、ファシリテーターをやっていただいたコンサルタントの方から少し説明をしていただこうと思います。

コンサルー資料6、参考資料1について説明

事務局ー参考資料2について説明

委員長ー今、経過及び地域の現状と課題、ワークショップの内容、関連する参考になるような施設のお話がありました。マギーズという施設は海が見えるというのは必要なんですか？

事務局ー施設の設置の基準として海が見える場所、または暖炉で火が見える場所みたいな、いくつか条件があるようです。

委員長ーワークショップの3回目のところで、8ページ、「前回まで出ていた看多機を今回、みんなが諦めてしまった」とあります。これはさっきご説明があった、事業者さんのご意見でそんな雰囲気が出たということでしょうか。

事務局ーそうですね。事業採算性を確保するために登録者以外にいかにかエリアを広く訪問看護出来るかというところで事業採算性を得ているようなんですね。そうすると車が必要だということで、最低でも3～4台プラス訪問看護専用で5台が必要になった場合に、あの場所ではなかなか車を置けるスペースがないし交通の便も悪いと。近所に駐車場を確保しようとする、駐車場の料金が非常に高いエリアなので、それだけで事業採算性が見込めませんね、というような話がありましたよということをお伝えしたというところでございます。

コンサルー2回目はまだ敷地に対してどれぐらいのボリュームかということは、あまり厳密には検討していなかったのですが、看多機の提案しているグループが複数あったんですけども、3回目の時は現地を見て、実際に建てられる建物の大きさがこれぐらいで、残りのスペースに駐車場を含めてどういう風に置けるかみたいなことも若干検討した後だったものですから、なかなか看多機で訪問看護もやると、5台車を置くのは近隣も含めて現実にはなかなか大変なんだなという、そんな認識が広がったかなと。

委員長ーさっき拝見したけれども、出入りの問題ですね。

(4) 本委員会の進め方

委員長ー続きまして、本委員会の進め方というところで確認をしていただきたいと思います。これにつきましても事務局からお願いいたします。

事務局ー資料7、参考資料3について説明

委員長ー今日は委員からお話をいただこうと思っております。ポイントになりますのは1番のワークショップや市民意見交換会、サウンディング調査との経過を踏まえるという点は、いろいろ資料等をお渡ししてやっているところがございますので。委員会としての検討するところは2.の、不足している視点でありますとか、この地域に本当に適しているものは何かという点を、絞り込んでいく、優先順位を付けていくという、その辺りの作業を、現在の第六期長期計画の方向性に逸れないような形で考えていくところとなると思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

(5) 課題を解決するために不足している視点について

委員長ーそれでは検討と議論の視点の2番目ですね、これまでの議論や本市の方針を踏まえ、不足している視点を補完するというようなことで、まずワークショップで出た意見のお話をいただきましたけれども、実際に出ていただいておりました委員の方に内容についての補足を兼ねて少し、お話をいただければと思います。先ほどのまとめでは、あまり偏らない概括的な説明をしていただきましたので、もう少し、参加された委員としてその辺の強弱を付けていただくような議論をしていただければ有り難いと思います。よろしくお願ひ致します。

委員ー資産活用課の方と一緒に見学に行きましたが、暮らしの保健室は、今までになかった新たな視点を感じました。8月4日に暮らしの保健室ミニということで、このコミセンで実行委員会を作り、社協、在宅支援の「ゆとりえ」、本宿コミセンも入って、年4回を開催する計画です。看護師の方も来て頂き、1時から4時半くらいまで第1回を開催し、4人の相談を受けることになりました。1回目ということで誰も来て頂けなかったらどうしようという心配もしましたが、関心を持っている方にコミセンに来て頂けたので良かったと思います。潜在的な需要が非常にあるのかなということを正直感じた次第です。後、10月と12月、来年2月の3回を予定していますが、ポスターだけでお知らせしたのですが、スタッフを含めて19名の参加があり、個別の相談も4名の方から受けることができました。

マギーズ東京というのも、2人に1人ががんという時代ということで、私の回りにもがんで最期を迎えられた方が何人かいらっしゃいます。実は「マギーズ東京に学ぶがんサポート拠点を武蔵野市に。」という会があります。9月23日(月)の午後1時からコミセンで、その方々の活動をご紹介する機会を得たいと思ひまして、今準備を進めているところです。そのグループの会合は今年になって2回開催されていますが、毎回70~80名の方が参加して、それぞれの方が体験談をお話になり、マギーズ東京そのものの実現は難しいかもしれませんが、機能として、そのことができることが必要かなということで、その方々の活動紹介を当コミセンでさせて頂く予定にしています。これもワークショップで話してきたことですが、当コミセンでもそういう視点を持って地域の受け皿となれるか考えていきたいと思ひます。

委員ーワークショップは公募が30人ということで、応募も30人くらいで実施できました。結果は思った通りという感じで、日頃から意見を言いたい人がたくさん参加されて言いたいことを言われたという印象でした。ただその中でも日頃はお見かけしたことのないような若い方が何人か入ってこられて、そういう方々からはまったく予想もしていなかったご意見も出ていました。この地域のお住まいの一市民として30代くらいの方もいまして、これからお父さんになります

という方で、バーベキューや野球ができたらいいですねというようなことをおっしゃっていました。そんなことを求める方もこの地域にはいらっしゃるというのが印象に残っています。

逆にそういうところに出てこない方々がたくさんいらして、日頃この地域で催されるイベント等にもいらっしゃらない方もいます。そういう人は二通り予想されて、一つはあまりそういう気持ちになれない、気分が高揚しない方々と、もう一つはまったく個人的に私の好きなようにしたいわ、という方々もこの地域には非常に多くいらっしゃいます。こうした自己完結されている方も多い地域ではありますが、そうはいっても災害などの場合は、つながらなくてはまずいという意識を持った方がほとんどです。やはり、何か困り事にぶつかった時に、自ら意見を言える方や、どこに相談すればよいかをどんどん探して相談に行ける方々は、おそらく市が今用意しているような相談窓口にもたどり着くことができると思いますが、それができない方々、気持ちが弱っていて積極的に行動できない方、あるいは大分お年を召されて、整理して問題を考えることができなくなってきた方々が、どこにいったらよいかわからないという時に、自分で抱えてしまっている人が、日頃からちょっとしたことでつながりのある地域の方々や、もっと気楽にいつもおしゃべりに行っているところだからという感覚で、そこで何か言ってみたらいろんなことにつないでもらえるというような、本当に気安く立ち寄れる、いつも行ける場所というようなことが、もしかしたらこれから整理していく時に、出てくるのかなという気がしています。

先程、委員が言っていました暮らしの保健室ミニという企画は、あえて広報を大きくしない形で、この地域に40カ所ある掲示板にポスターを掲示しただけの広報にしました。そうしたら、まったくお目にかかったことのない方も相談にみえたんです。しかも割に若い方でした。そういう意味では、何か求められていることがあるのだということを実感しました。10月は本宿コミセンでやるので、ちょっと地域が違いますのでどんな風になるのか、そんなところも見ながらこれからの検討に活かしていけたらいいかなと思っています。

委員—私は子育てに関心がある者として頑張らなくてはと思い参加させて頂きました。現在子育て広場をやっています、お母さんたちに接しているのですが、あるお母さんが実家に帰ると子どもが泣くという相談を受けました。おじいちゃん、おばあちゃんの顔を見ても普段会っていないということだろうと思います。お年寄りと触れられるような場所があるといいのだろうと思います。

保育園は、いっぱいできているし、認可保育園も空きができれば、自分の好きなところに移動できるくらい少しゆとりがあると感じていますので、保育園はこの場所にはなくてもよいのではないのでしょうか。それよりは、自宅で子育てをしている人がいっぱいいるわけで、広場にも出てこない人、籠もってしまう人をどう支援していくのかと思いつつ、気軽に行ける場所があればわたしたちがそこに出かけていくこともできるし、役所に相談に行く前に行くことができれば、簡単なことであればそこで解決できるのではないかと思ったりします。

自分の子どもがミルクを飲まないといって飛び込んできたお母さんがいました。そしたらなんていうことはなく、吸い口が詰まっているだけのことでした。そういうこともわからないんだということがわかりました。そんなことを気軽に教えてあげられる場所が必要だと思います。

こんな例もありました。スチュワードスをしていたという方でしたが、子どもができる以前はパイロットの旦那さんとすごくいい暮らしを楽しんでいたようですが、子育てにしばられて頭が狂ってしまうという相談でした。その方には子どもを預けて遊んでいらっしゃるア

ドバイスしてあげました。今は子育てが楽しいというように気持を切り替えることができたようです。こんなふうに気軽に教えてあげることができる場所、保育士でなくても子育ての経験のある方が経験を伝えられる場所がほしいと思い今回参加させて頂きました。

委員長一有難うございました。地域の現状と課題という説明もありましたが、私としては吉祥寺というまちの活性化というか、吉祥寺のまちづくりの一環という視点も必要ではないかと考えています。

委員一武蔵野市は幸いにも人口も各自治体が減少していく中で、まだしばらくは増加が続き 16 万をちょっと越えるところまではいきそうだという推計が出ています。その中でいろんな人が入ってきて、未来に向けて世の中が複雑化したり、非常に多様化していく中で、お互いの時間やニーズがぶつかったりする、これからは寛容性が必要になってくるのではないかと考えています。先程説明があった武蔵野ならではの「地域共生社会」というのが今回の大きな全体を貫くテーマになっていると思います。一言でどういうことかというとな難しいですが、今の言葉で言うと、インクルーシブということのなるのでしょうか。包摂性、高齢者、外国の方もみんな包摂され、寛容性の中で穏やかに地域で暮らしていくことができる、というようなことが今回の一番のテーマだと思っています。高齢者とか障害者の居場所というキーワードは、あちこちに出てきます。高齢者といっても、私はお世話をする人で、私はお世話をされる人ということではなく、役割が固定化しないような考え方の中での高齢者ということではないかと私は思っています。高齢化率という数字は、65 歳以上を高齢者といっていますが、今は 65 歳はとも高齢者とは言わない。みなさんお若い中で、特に男性は 60 ないし 65 で会社を辞めてまだ元気だけど、そこに役割がないという方もいらっしゃると思うので、従来型のテンミリオンハウスだと、どちらかという利用者の方と運営側が分かれてしまっていますが、そうではなくて高齢者がそこで、何か力を発揮していくような場を考える、これは従来型のテンミリオンハウスの対極にあるのかとも思います。

子どもの居場所という話もありますが、子どもといってもちっちゃい子と青少年という両方が市民からのニーズとしてあります。また、青少年といっても引きこもり系の方の居場所と元気な子たちに社会での役割とつなげていくような居場所というのがあるのではないかと思います。高齢者にも少なくとも二通りはあるし、子どもといってもいくつかの類型があることが計画の中身を読んでいくと気づくところです。

それともう一つは、まだそれほど顕在化はしていませんが、外国人が相対的な数は少ないですが、伸び率でいうものすごく伸びていますので、教育の問題も言われていますが、包摂のテーマに外国人も入ってくるのかなと思っています。

0123 の話しとテンミリオンハウスのプロット図を見るとテンミリオンハウスがこの地域にはありません。この場所はコミュニティセンターですが、コミュニティセンターの役割というものもあるので、その点は役割をきちっと整理した上で役割の重複ではなく、連携を上手く考えることを視野に入れながら進めていきたいと思っています。全体的な話しとしてはそんなところです。

委員長一すみません。順番を間違えました。ワークショップの運営に係わったコンサルタントの方から議論の不足点について補足をして頂きましょう。

コンサルナーは、ワークショップに参加された方が限られているので、委員のご指摘にあったように参加された方はそこにいない方のことを想像しながら議論はしていますが、その点をどう補っていくかということがあります。二つ目は、ワークショップでは一貫して多世代が交流できるということが大きな合意としてあったと思うのですが、具体的にどのような機能や空間があればそのことが可能になるのかが、十分議論できていません。ヒントはいくつか出ていると思うのですが、敷居が低くいろんな人が出入りし、自然に交流するためには相当な工夫がいると思いました。三つ目は、委員が指摘されたように、この場所にコミセンがあり、計画地にどのようなものがあるのが連携が取れながらより可能性が広がるのかについては、あまり議論されていませんでした。最後に委員の報告では、実験的に暮らしの保健室を実施されているということですが、特色ある施設づくりということであると、マギーズ東京もそうですが、暮らしの保健室というのは、この地域の特徴を見出すようなものではないかと思いました。

委員長—それでは、引き続き委員をお願いします。

委員—高齢化率の話がありましたが、武蔵野市には 32,000 人強の 65 歳以上の方がいます。その内 6,400 人くらいの方が要介護認定を受け、介護保険のサービスを受けているわけで要介護認定率は 20%ということになります。考えてみれば、65 歳以上の 80%の方はこれまでのように生活が継続できているということになります。ただし、65 歳～74 歳までの前期高齢者の方の要介護認定の出現率は 3%で、75 歳以上になると 33%になり 3 人に 1 人の割合になります。74 歳以下の方は、100 人の内 3 人しか何らかのサービスを必要としている方はいないのです。そういう現実があり、それでも武蔵野市でより永く住み続けて頂きたいということで、要介護認定の方の内 640 人という 1 割の方が特養に入所されています。その半分以上の 392 床が現在市内にあります。だけれども、長期計画案の 9 ページの中では、小規模多機能の施設を整備すると書いてあります。背景には現実の制約もあります。もう市内に大きな特養をつくれるような場所がないのです。武蔵野市では必然的に小さな施設を地域につくって行って、大きな施設を拠点としてその他を埋めるように小さな施設を網の目のように張り巡らすのです。それが長期計画で考えているわたしたちの施設整備の基本的なあり方であり、考え方です。その際にわたしたちが創設したテンミリオンハウスは、武蔵野市の最大の発明だと思っています。よく考えられていて、よその市から視察に来られると、市民の運営する施設に毎年 1,000 万円も出せるのは、市が裕福だからとおっしゃるのですが、決してそうではなくてどのテンミリオンハウスでも定員が 20 人くらいですが、20 人規模の介護保険のデイサービスを運営するとすれば、年間 2,500 万円くらいかかることを考えれば、1,000 万円の運営費は決して高くはないと思います。場所についても、リバースモーゲージや寄付頂いた使い道のない建物を活用している例も多く、休眠資源を活用できているという面もあります。安上がりで休眠資源が活用できていて、尚且つそこを市民の方に支えて頂いて運営をして頂いている。「川路さんち」はもう開設して 20 年間運営され、今なお元気で運営されています。そこに通っている方も開設当時から通っていますが 103 歳で元気です。ということは運営されている方も通っている方も元気だという一石四鳥くらいの効果のあるもので全国に誇ってよい仕組みだと思っています。テンミリオンハウスができた当時の市長は、武蔵野市には 13 の町があり 51 の丁があるが 51 カ所作っても高々 5 億円だといっていたくらいです。今では地域社協、福祉の会のエリアである 13 カ所を目標に設置を進

めています。現在 20 年経って 8 カ所整備できました。2 年前に「ふらっと・きたまち」ができたので、13 カ所を達成したいと改めて思っているところです。優先的に整備すべきはやはり現在ない地域だと考えています。東部地域につきましては、3 年前に「岡田さんち」が運営継続できなくなり、東部地域には高齢者のサービスを提供できる施設がなくなってしまったということがあります。それ以外にもない地域はありますが、他の地域にはそれを補う施設があり、最も優先すべきは東部地域だと考えています。

武蔵野市ならではの「地域共生社会」を作っていくためのサービスの基盤整備ということだと、委員の話にあったように支える、支えられるという関係を越えていかななくてはいけないということがありました。このことは普通に考えると、元気な高齢者が支援を必要とする高齢者を支え補っていくということなのかもしれませんが、それだけではなくてテンミリオンハウスには、その利用者で来ている人が講師になっている例もあります。さまざまなプログラムにも参加しながら、学校の先生だった方が、源氏物語を全巻読むという講座をされたという事例があります。本来であれば支えられる側の人にも役割を見つけ出せるという意味で新しい共生のあり方というか、役割を發揮できる場として機能しているといえます。

「花時計」は、唯一 2 階建てのテンミリオンハウスですが、高齢者は 2 階に上がれないので 2 階には子育て世帯のお母さんと赤ちゃんが来ています。その方々がお昼の時間だけ一緒に食事をする。そこでおじいちゃん、おばあちゃんを見たことのない赤ちゃんとの触れ合いができています。おじいちゃん、おばあちゃんは、子どもたちの名前を聞いて、お母さんたちとも交流しています。多世代交流もありながらほどよい距離感もある場を実現しています。

最近できた「ふらっと・きたまち」は、唯一地域社協、福祉の会が運営をしてくれていますが、そこは、今までなかったということもあるかもしれませんが、男性一人で来る方が比較的多いということが特徴です。お昼が 400 円で提供されていますが、それだけではなくて特にプログラムに参加しなくても新聞を読んでいるだけでもいいといわれていますので割と気軽に来られるようです。

武蔵野市の特徴として 4 人に 1 人は一人暮らしの高齢者であるということがあります。8,000 人以上の人が一人暮らしで、孤食で栄養も十分取れていないという高齢者が多いという可能性が高いのです。そのような方が一緒にご飯を食べることができる場になっています。

尚且つテンミリオンハウスは、市が 1,000 万円の補助を出しているということで一定の制約はありますが、かなり柔軟な運営を担保しているという点で、そこから新しい可能性も出てくるのが期待されるので、武蔵野市ならではのというのは、テンミリオンハウスのような市民の互助・共助の力で支え合い、かつそこから新たに交流も生み出されるようなそういう場がつかれるということがこの東部地域に最も求められていると思っています。敷地は結構広く、テンミリオンハウスは 100~200 ㎡もあれば足りるので、他の機能を十分盛り込んでいけると思いますが、それはこれから考えていければと思っています。

委員一子育ての視点でお話しさせていただきます。東町地域は、年少人口の比率が低いということですが、だからといってそういう世代に対するサービスをしなくてもよいということではなくて、子ども、子育てを応援するまちとして子育てに関する事業をやることによって、安心して子どもを産み、育てることができるということで、子どもが増えるというのが望ましい姿かなと思っています。委員からも話があったように、保育園は一定落ち着きを見せています。特に吉祥寺地域は、市内の中でも一番先に落ち着いた地域かなと思っています。資料 6 のワークショップ

プのまとめで踏み込んで意見を頂いていますので、それに沿ってという二つ目の「乳児とその親への支援」の一時預かり自体は、ニーズはあるのですが、実際開いてみるとそんなに利用がないというのが実態です。それが一時保育と病後児保育の実態です。現在、保育施設でも一時保育をやっていますので、ここで絶対に必要ということではないかと思っています。乳児の親御さんの支援については、この地域には、0123があります。但し、0123があるからといって、0123は施設としては広すぎるので、個別の相談、ちょっとした相談についてはつかみづらいという現状があります。0123については、もう一つ千川に「はらっば」という大きな施設がありますが、それとあまり遠くないところに「おもちゃのぐるりん」という小さな知育玩具を置いた施設があります。お母さんたちも使い分けていて、スタッフにちょっとした相談をしたい時は小さな施設に行って、グループで楽しみたい時は0123に行くというような関係があります。実はここでもコミセン親子広場をやっています。人数の多い時もありますが、ここは多分天井が高すぎて落ち着かないのだと思います。委員にはさんりんしゃの会をやっています、スペース的にはあまり大きすぎず一室くらいのスペースが気軽に相談しやすい雰囲気なのかなと思います。今コミセンがやっている親子広場は、月に1～3回くらいなので常設型の施設があればみなさん喜ぶのかなと思います。

次に「小中高生の居場所」ですが、今親のニーズが高いのは学童保育を4年生以上までやってくれというものです。親のニーズはそうなのですが、子どもはそう思っていないのかもしれませんが。1年生が高学年と一緒に遊ぶというのは現実的ではなくて、5～6年生が固まって遊ぶことはあるのかもしれませんが、学童にそのようなスペースはなかなか確保できないので、5～6年生は塾に行ったり習いごとをするということではありますが、行っていない子たちには居場所が欲しいというニーズはあると思いますので、この意見はもっともだなと思っています。委員からもありましたように、中高生の居場所、部活に入っていないような子たちの居場所が必要だろうと思います。イメージ的には帰宅部の部室のようなものがあればみんな行くのかなと思います。実際プレーパークという事業があって、公園で火を使ったり泥だらけになって遊んだりするのですが、そういう場所にはいわゆる不登校の学生とか中高生が来て、スタッフとやり取りをするという子の数が増えています。東町地域では松籟公園で今年からプレーパーク事業をやっていますが、回数も少なくまだ認知度が低いので、小さい子が中心になっています。将来的にはそういう子たちも来るのではないかと思っています。そういう福祉的な意味での中高生の居場所づくりの意味はあるのだらうと思っています。とはいうものの中高生の実態がつかめていないという現実もあります。そこも含めて何か気軽に来られる場所、小学校、中学校の時から来ていて、そのまま高校で何かあってもまた戻って来られるような場所が必要だと思うのでワークショップの意見は納得できる内容だと思います。

コミュニティ食堂、みんなの食堂、子ども食堂という話が出ていますが、世代間交流をするには食にヒントがあるのかなと思っています。今、市内で子ども食堂をやっている団体が6団体あります。ただ、月に2回ないし、1回の子ども食堂なので、その意味では常に或いはもう少し回数が多く低価格で食べられるところがあって「花時計」のようにお昼は、乳児とお母さんとおじいちゃん、おばあちゃん、夜は比較的若い人と中高生、大学生まで含めて利用できるコミュニティ食堂があると、世代間交流を含めた何か活発な活動ができるのではないかと思います。

一番の課題は、そういう多岐に渡る事業を考えた時の担い手が見つからないということを心配しています。ただ、委員からあった若い人がワークショップに来ているというような話を聞

きますと青少年の問題協議会という会があったり、民生委員や奉仕団の方も担い手の発掘というか、高齢化固定化はずっといわれているので、その意味で人材発掘、人材育成の場としてこのような施設が使えると更にいいのではないかと思い聞いていました。

委員長—専門委員のお二人はいかがですか。

副委員長—いろいろな意見を聞かせて頂きました。多世代ということで、乳幼児、小学生、中学生、高校生くらいからお年寄りに関しても前期高齢者の方から要介護の方くらいまでかなり幅広く含まれていたかなと思います。

今回ワークショップでもあまり出ていなかったかなと思うのですが、病気の方の話はあったのですが、障害を持った方に関する視点が少なかったということがあるのと外国人の方、介護領域ですと今後外国人の介護職員が増えるのではないかという話もありますし、小学校などにも外国人の子どもが増えるということも考えられますので、それに係わってくる人も増えてくるので地域共生とか多世代というと高齢者と子どもだけではなく、障害を持った方や外国人も含めて想定されてもいいのかなと感じました。

委員—一杯データを頂きましたが、あの敷地に全部は入らないと思います。古い建物を見に行きますと、結構使っていないスペースや時間がありますので、週と一日のどの時間にどの部屋がどのように使われているのかを整理すると増築は必要ないという判断に至ることもよくあります。時間と空間の工夫という指摘にもありますように、それを割り出すといいのではないかと思います。

他に災害時の対処が少し必要かと思いました。先程の話しの中にバーベキューのことが出ていましたが、実は東京都の団地でバーベキューの装置を作ったことがあります。幸い災害時に使ったことはありませんが、2つのことや3つのことを変えられるように作ることで割合コンパクトに作ることができますので参考にさせていただければと思います。